

先輩イクメンインタビュー④

仕事と子育ての両立を考える 貴重な時間にもなった

外務省 欧州局 政策課
課長補佐

山川寛詞
(育児休業取得)



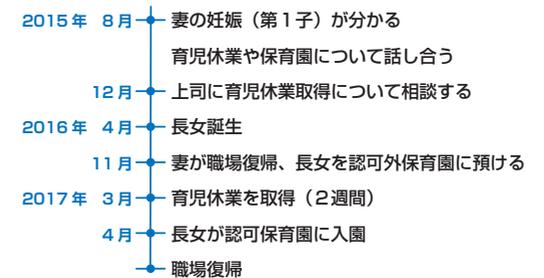
妻の妊娠が分かってから、今後必要となるであろう、育児休業や保育園について夫婦で勉強を始めました。

4月に長女(第1子)が誕生してから、妻は育児休業を取っていましたが、11月に職場復帰しました。そのため、娘は生後7カ月から職場近くの認可外保育園に預けることになりましたが、翌年4月からは自宅近くの認可保育園への入園を希望していました。

育児休業取得については、出産前に取得時期も含めて上司に相談したところ、積極的に応援すると言ってもらいました。その取得時期は、認可保育園入園に合わせた3月末から2週間でした。ちょうど当時、担当していた「外交青書」作成の最も多忙な時期と重なっていました。上司は「必要な時に取らないと意味がない」と快く了承してくれました。その時は、上司と業務をサポートしてくれる同僚に感謝しました。

育児休業中は、娘が11カ月の時でした。

■育児時間取得までの流れ



■1日のスケジュール

- 7:30 起床、朝食の準備
- 8:00 朝食
- 9:00 掃除、洗濯
- 10:00 子どもの世話
- 11:00 昼食の準備
- 11:30 昼食
- 12:30 子どもの寝かしつけ
- 15:30 子どもと散歩、買い物
- 17:30 夕食の準備
- 19:00 妻帰宅、夕食
- 20:00 子どものお風呂
- 20:30 絵本の読み聞かせ
- 21:00 子どもの寝かしつけ
- 21:30 離乳食の仕込み、読書

とっての、仕事と子育ての両立について、落ち着いて考える時間にもなりました。

外務省は、男性職員の育児休業にも理解がある組織です。幸いにも仕事と家庭を両立する優秀なイクメン先輩が多く、経験談などは参考になりました。今後は私も部下に対して、積極的に育児休業を取るよう勧める上司になりたいと思います。

家事を含めた育児全般と、保育園の慣らし保育の送り迎えをしました。娘はまだ離乳食の時期だったので、レシピ本を見ながら3食全て手作りしました。食事の準備から、食べさせて片付けまでの工程だけでも時間が掛かり、1日があっという間でした。共働きなので、これまでも家事や育児は手伝っていました。1日を通して全てを経験したことで、妻一人で家事+育児は、相当な負担であることが分かりました。



妻からのコメント

娘も見つめる両親対等の育児と仕事

年度変わりの忙しい時期に、夫の育児取得を承認いただき、職場の皆様にご感謝いたします。短期間ではありましたが、夫の育休中は安心して慣らし保育を任せ、仕事に取り組みました。育休後も、現実の難しさはありつつも、夫がなるべく夫婦対等に育児も仕事も出来るようにと努める姿を、娘もしっかり見ている気がします。

子どもの成長は本当に早く、その日々の成長に向かい合っ過ぎて過ごすことは親にとって、この上ない貴重な経験であり、男性も育児取得などにより積極的に育児をされたら良いと思います。育児を行いながら仕事もしっかりできることが当然となるように、より多くの方の行動で、社会の働き方が変わっていくと良いと思います。